

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-75

学校名・団体名	京都市立烏丸中学校
HPアドレス	http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/karasuma-c/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	伝統文化教育
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>地域の主体者として積極的に提言・発信ができる生徒の育成 ～伝統文化教育と教科学習との横断的な連携～</p> <p>日本で代表的な歴史と文化を持つ京都。さらにその中で世界的遺産とも呼べる数々の伝統文化が息づく、室町・西陣地区を有する我が校において、その素晴らしさを感じ、将来の主体者として、また文化の担い手として、情報の発信者となれる生徒の育成を目指す。</p> <p>一方、伝統文化は、何世代にもわたって受け継がれている匠の技が凝縮しており、数回の体験で体得出来るようなものではない。私たちは、伝統文化の伝承者そのものを目指すのではなく、伝統文化を各教科の教育目標・教材の中にツールとして取り入れ活用することで、より地域に根ざした教科教育を目指したい。</p>	

<伝統文化体験>

- 7月：1年和装体験
- 9月：全学年ミニ茶道体験
- 10月：3年茶道教室・3年和装着付け指導・2年和菓子体験、オリジナル和菓子制作
全学年河村能舞台鑑賞
- 11月：3年干菓子制作・全学年箏体験
- 11月7日：心からすまいるおもてなし集会・風神雷神図屏風鑑賞
- 12月：2年筑前琵琶体験・1年御所見学
- 1月：全学年百人一首大会
- 2月：1年西陣織機織り体験・1年陶芸教室（茶器制作）
- 2月：3年和食制作（料亭畑かくの出汁の取り方講演）

<各教科の取り組み例>

- 国語科：能楽について・和菓子の銘・平家琵琶・小倉百人一首・和歌
- 社会科：和菓子・陶芸・西陣織・能楽・茶道・販売・小倉百人一首
- 数学科：曲尺・算額（方程式・三平方の定理）・家紋・紋切型（線対称・点対称・図形の移動）
- 理科：水飴・和紙作り
- 音楽科：能楽鑑賞・和楽器（大鼓・小鼓・箏）
- 保体科：武道
- 技術科：伝統的ものづくり・伝統野菜・からくり人形
- 家庭科：浴衣・和装・干菓子作り・和菓子作り・和食（出汁）
- 英語科：伝統文化を英語でプレゼン

<心からすまいるおもてなし集会2015>

伝統文化体験で学んだこと、出来るようになったことを元に、今度は自分たちから地域みなさんに思いを発信する場として、「心からすまいるおもてなし集会」を実施した。当日は、オープンスクール週間の最後の日として、土曜日に設定。1, 2時間目は、「伝統文化」を取り入れた各教科の授業参観を行い、3, 4時間目を全学年体育館にておもてなし集会を企画した。

1年生は、「私たちの住む地域の過去～現在～未来」のテーマに基づき、I期より地域調べを行い、文化祭では途中経過を発表した。そしておもてなし集会では、今年については、地域の『過去』から見えてくる良さについて、グループ毎に8枚のポスターセッションを行った。

2年生は、美術の時間にデザインを考え、国語の時間に創作和菓子の命名を行い、おもてなし集会では、それを元に、小麦粉粘土でオリジナル創作和菓子を製作し、1年次に制作した菓子皿と茶器と共に展示した。

3年生は、事前の家庭科の授業で干菓子を制作しておいて、またこの日の1時間目の家庭科の授業で全員が着物の着付けを行い、案内から接待も含めて来校された皆さまにお菓子とお抹茶でおもてなしを行った。

<おもてなし集会の成果>

1年生のポスターセッションでは、地域への提言に対して来校者に説明すると同時に、様々な質問や意見を交換し、付箋で評価をして頂くという繰り返しの中で、説明や表現力・コミュニケーション能力が格段に上達するだけでなく、地域の方々や中学生がふれ合い、意見交換する大変貴重な場となった。3年生は直接、「おもてなし」そのものの活動を通して、和装・和菓子・お抹茶というこれまで体験してきたツールを使って来校者に気持ちの良い時間と空間を提供する事ができた。来校者の「ありがとう」「おいしかった」の言葉は、生徒たちの心に大きく響いたようだ。

おもてなし集会は、「おもてなし」を通して、生徒たちのコミュニケーション能力や自尊感情が著しく高められる。自分たちの学んできた事や考えを発信するというまたとない機会であると同時に、心が豊かになる時間でもある。生徒の感想に「おもてなししていたつもりが、いつのまにかおもてなしされていた」「おもてなし集会は、地域の方々や、1～3年生と一緒に同じ時間を過ごせてとても良かった」というようなものが多数あり、成果が見て取れる。

<伝統文化教育全体を通しての生徒の変容>

伝統文化教育に対する意識を調査するため、入学間もない1年生時と、全ての取り組みを終えた3年生時に、伝統文化に対する同じ項目のアンケートを実施した。「伝統文化に興味があるか」「伝統文化は大切だと思うか」「伝統文化は未来に伝えていくべきか」「伝統文化はまわりに広げるべきか」のいずれもが、1年次より「そう思う」「まあ思う」にマークする生徒が増加し、より「強く」そう感じる生徒が増えていることが伺える。

また、「伝統文化は新しいものを取り入れるべきか」に対しても、強く思う生徒が増加しており、伝統文化は守っていく姿勢も大切だが、それだけではいけないと感じる生徒が増えていることが興味深い。新しいものを取り入れればよいものだと短絡的に決めつけることは出来ない。しかし、現在にも受け継がれている伝統文化は、古き良きものに新しい何かを加わってきたからこそ、何百年も残り発展してきたという側面は否めない。それに生徒が気づき始めているのが面白いと言えないだろうか。

「伝統文化体験を通してふれあいができたか」「自分に自信がついたか」「伝統文化を誇りと感じるか」に対しても強く思う生徒が増加しており、「コミュニケーション能力」「自尊感情」「地域の主体者としての自覚」の向上につながっている事が見て取れる。

最後に、「伝統文化体験が自分の生き方に影響したか」に対しては、際だって「した」と答える生徒は少ないものの、1年次に「分からない」と答えていた生徒が3年次では大幅に減少している事から、何らかの関わりを意識する生徒が増えていることが見て取れる。

以上より、伝統文化教育の総合的な成果として次のような点があげられる。

- 自らが住むこの地域の良さに気づき、主体者としてその良さを発信していける
- 伝統文化という大きな枠組みの中にある時間の流れ、人々の姿を感じられる
- 伝統文化の良き伝統を守る姿勢と新しいものを取り入れ変容していける力を持つ
- 伝統文化体験を自らの生き方に関連させることができる
- コミュニケーション能力や自尊感情の向上